高松創造都市（クリエイティブ高松）推進ビジョン（総論）

骨　子　案

平成２５年３月

ビジョンの体系図

１．はじめに（目的、計画期間、位置づけ）

２．創造都市の動向
　創造都市の潮流　／　国の動向　／　県の動向　／　高松の動向

３．現況と課題の整理
　考え方　／　７つの創造都市政策指標から見る高松市の課題

４．ビジョンと戦略　＜３つのローカル＞（マテリアル、テクニック、デザイン）

＜高松がめざす３つの将来像＞
小さくても理想の暮らしが実現できるまち
「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち
「芸指数」が高いまち（民藝・工芸・民具）

＜ビジョンを達成するための戦略＞
グローバルにひらく戦略
高松ならではのブランドを編集する戦略
ゆるやかに連携し、段階的に取組む戦略

総論で策定する内容

５．創造的アプローチ

場の創出
創造的人材の集積
編集・発信

６．主なプロジェクト
【　食　】フード・イノベーション・プロジェクト
【こども】高松チルドレンズ・ミュージアム・プロジェクト
【祝　祭】ワールド・フェスティバル・プロジェクト
【生活工芸】グローカルな生活工芸プロジェクト
【交流空間】海園・田苑とつながる人間都市プロジェクト

７．ビジョン推進に向けて

各論で策定する内容

１．はじめに

（１）目的

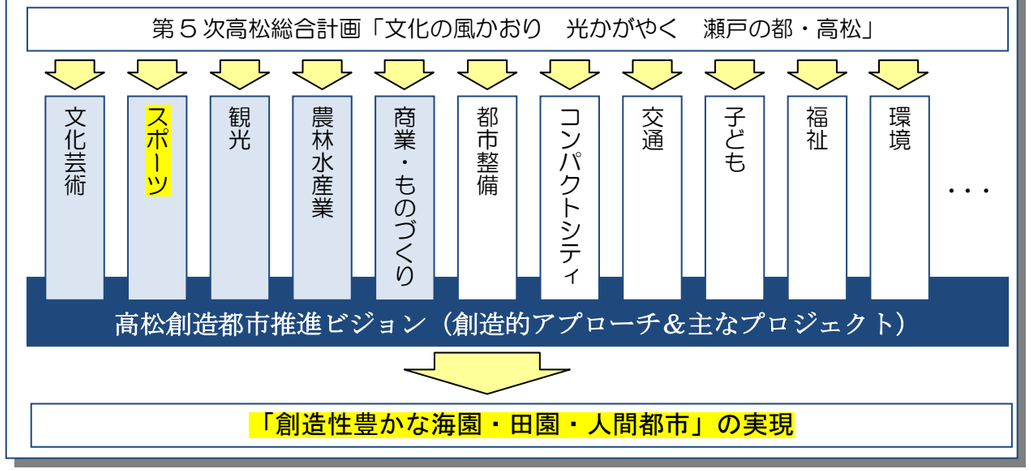
○固定観念にとらわれない創造的な方法（アプローチ）により、地域課題の解決と地域活性化を目指すことで、市民一人一人が創造的に働き暮らし、活動できる「創造都市」を実現します。

（２）計画期間

○平成２６年度～平成３０年度までの５年間を計画期間とします。
○平成２５年度は本ビジョンの各論を策定するとともに、主なプロジェクトについては試験的に取組を開始します。

（３）位置づけ

○第５次高松総合計画に基づき、分野別計画や施策を横断的に取組む創造的アプローチを実現するとともに、重要課題について官民協働による戦略的なプロジェクトを実践するための方向性及び施策・事業を取りまとめたものです。



2．創造都市の動向

（１）創造都市とはなにか

①創造都市の定義

・C.ランドリー「創造都市政策論」／R.フロリダ「創造階級論」
・市民一人一人が創造的に働き、暮らし、活動できる都市
・「創造経済」（個人の創造性、スキル、才能を源泉とし、知的財産権の活用を通じて、富と雇用を創造する可能性を持った産業）は、社会包摂、文化多様性、人間発達を促進しながら、所得と雇用を生み出す可能性がある

②創造都市ネットワーク

○創造的文化産業の振興に関する経験、ノウハウ、技能訓練と技術を共有することで、国際的に創造的経済を育成する
○３つの条件
・創造産業を担う文化的活動が集約されている
・創造活動を行う人同士を結びつける潜在的な可能性がある
・都市内部の文化産業と国際的な市場への出口をつなげている
○７つの分野（デザイン／文学／音楽／食文化／フォークアート／メディアアート／クラフト）

（２）国の動向

○文化芸術振興の側面からだけでなく、自立的な地域社会の形成や、産業振興の側面からも創造都市政策が立案・実施されている
・文化庁「文化芸術創造都市」「文化庁長官表彰」「東アジア文化都市」
・総務省「緑の分権改革」「定住自立圏構想」
・経済産業省「クール・ジャパン（クリエイティブ産業の育成、国内外への発信）」
○創造都市ネットワーク日本
・創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内および世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、わが国における創造都市の普及・発展を図ることを目的として設立（2013 年 1 月 13 日）

（３）県の動向

①高松城を中心とした城下町と文化土壌の形成

・1587 年に生駒親正によって高松城は築かれ、その後、高松松平家によって城下町の整備が行われた
・高松城（玉藻公園）、栗林公園、法然寺五重塔の歴史遺産
・文化芸術の振興（茶道、華道、俳諧、漆芸、保多織、桐下駄、円座、提灯、盆栽、張子、獅子頭）

②1950 年～1960 年代の動向

・金子正則知事「デザイン知事」「デザイン室」
・香川県庁（丹下健三）、猪熊弦一郎、讃岐民具連

③アート県。かがわ

・うどん県アートコンペティション／島・街・里のアート旅（芸どころ讃岐の風景美とアートをめぐる旅）／せとうちアート・トリップ／香川の現代建築とアートマップ／瀬戸内国際芸術祭／夢巡り読本（香川・田園美術館）

（４）高松市の動向

①上位計画・関連計画

・第 5 次高松総合計画「文化の風かおり　光かがやく　瀬戸の都・高松」
・高松市農業振興計画／高松市観光振興計画／新高松市文化芸術振興ビジョン／高松市立美術館の今後の運営方針／高松市スポーツ振興計画

②高松市の資源・特徴

・豊かで住みやすい地域
・発達した支店経済は縮小傾向・強い本土志向
・豊富な資源と厚みのある文化土壌（讃岐松平家・讃岐三白、盆栽、漆塗(japan)、和三盆、瀬戸内・島・古民家）
・高いポテンシャルと新たな動き（盆栽の世界大会開催、墓石からの脱却を目指す庵治石、台湾との定期航空便の就航、芸術士の取組、四国域内観光の推進）
・全市的な取組や市民団体同士の連携不足

3．現況と課題の整理

（１）考え方

○暮らし続けるためには稼ぐ、儲けることが大切。経済的余力が文化芸術を支え、文化芸術が都市経済を支える好循環を生み出していく。
○一方で経済が縮小する社会の中で、収入以外の評価軸を持ち、共感によって人がつながる幸福論を追求していく。
○まちなかだけでなく、海園や田園も含めた多様性が高い高松市は、様々な人を受け入れる寛容性が高い。「ゆるい」ネットワークを形成しながら、経済循環と幸福論を目指していく。

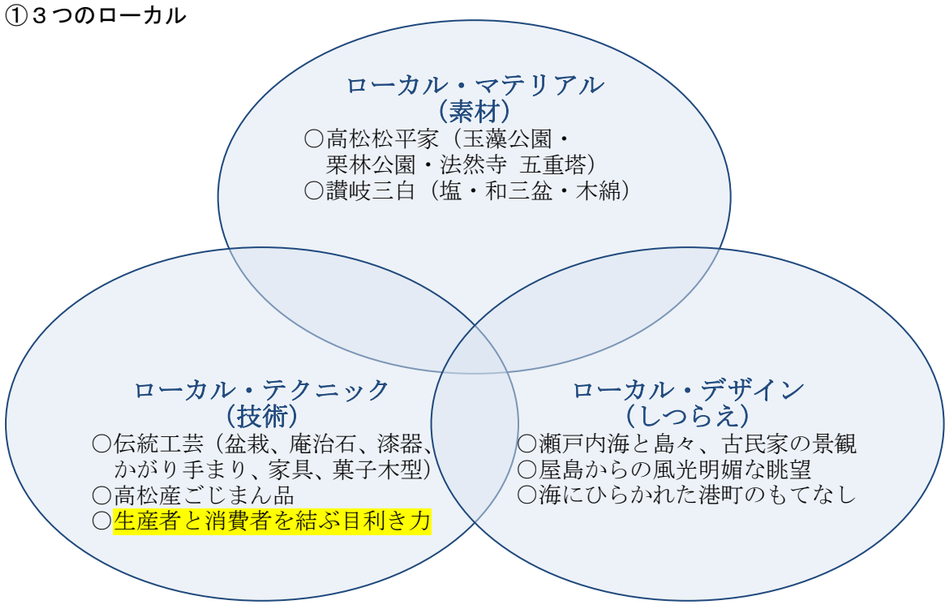
（２）７つの創造都市政策指標から見る高松市の課題

政策指標	現状と問題点・課題
①創造的人材	瀬戸内国際芸術祭等を機に U･I･J ターンする芸術家は増加傾向にあるものの、本土志向により 20～40 代の若年層が少ない。
②生活の質	文化芸術に係る資源やイベントは多数あるが来場者数は少ない。貯蓄率は全国有数の高さだが、若年層は貯蓄率が高くない。
③創造産業	ものづくり産業は企業数･従業者数ともに減少傾向。最も多い卸売業と連携した創造的な新商品の企画開発が課題。創造的職種の従業者数は全国平均よりやや高め。
④創造支援インフラストラクチュア	創造活動を行う場や、創造的人材の交流の場が不足。一方でまちなかを中心に廃校などの空き施設・空き家が増加。
⑤文化遺産と文化資本	屋島や讃岐松平家の歴史文化を中心に文化財は多いものの、現代的なニーズに対応できる魅力に欠けており、観光客数は減少。
⑥市民の活動力	NPO や市民団体は非常に多く、活動は活発的。一方で団体同士の連携が少なく、大きな活動に発展しない。
⑦創造的ガバナンス	創造都市の推進を目指し、平成 24 年度に創造都市推進局を設立し、予算の拡充などをめざすが、財政は厳しい。また創造的人材を活かすクリエイティブ・マネジメントが課題。

４．ビジョンと戦略

（１）３つのローカルにこだわり、グローバルに編集・発信する高松のかたち

①３つのローカル



②高松がめざす３つの将来像

小さくても理想の暮らしが実現できるまち

○高松で暮らし続けるためには、経済の好循環を生み出すことが必要です。また、経済的余力は文化芸術を支え、創造都市の土壌を育みます。
○一方で人口減少社会、少子化・高齢化社会の到来により、経済がシュリンクする中で、収入に左右されない、共感のもとにつながる幸福論の追求が求められています。
○都市と海園・田園が広がり、また歴史文化土壌に恵まれた高松では、多様な暮らしが実現できます。各人が小さくても理想の暮らしが実現できるまちをめざします。

「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち

○瀬戸内海に開かれた高松は、島嶼と都市、本土と四国を結ぶ要所として栄え、数多くのヨソ者を受け入れてきました。
○2010 年から始まった瀬戸内国際芸術祭は、国内外から多くの観光客が訪れ、数多くのアーティストと住民の交流が生まれました。また、これまで忘れられていた海や島の価値の再発見にもつながりました。
○住民とヨソ者が一緒になり、地域資源の再発見と活用を通じて、その土地ならではの「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまちをめざします。

「芸指数」が高いまち（民藝・工芸・民具）

○高松松平家の繁栄により、市内には盆栽や漆器などの伝統工芸が育まれ、また、庵治石や家具など高松ならではの自然を活かした工芸も生まれました。
○1960 年代に活躍した讃岐民具連は、人と人の交流を通じ、伝統工芸の技術を異業種と組み合わせることで何かが生まれる土壌をつくり、職人の意識や地位を高めました。
○自然や歴史、生活と工芸が結びついてきた高松の特長を生かして、常に新しい何かが生まれる「芸指数」が高いまちをめざします。

（２）ビジョンを達成するための戦略

グローバルにひらく戦略

○都市経済の好循環を生み出すためには、今後も成長力が見込まれるアジア新興国を中心とした海外市場の獲得が重要です。
○工芸品や農林水産物の販路を国内外に積極的に開拓していくとともに、小規模イベントを国際級に育て上げ、外国人観光客の増加を実現します。
○海園及び田園の恵まれた自然や、市街地の現代的な都市空間をさらに磨き上げることで、市民が世界に対して誇りを持てる都市を育みます。

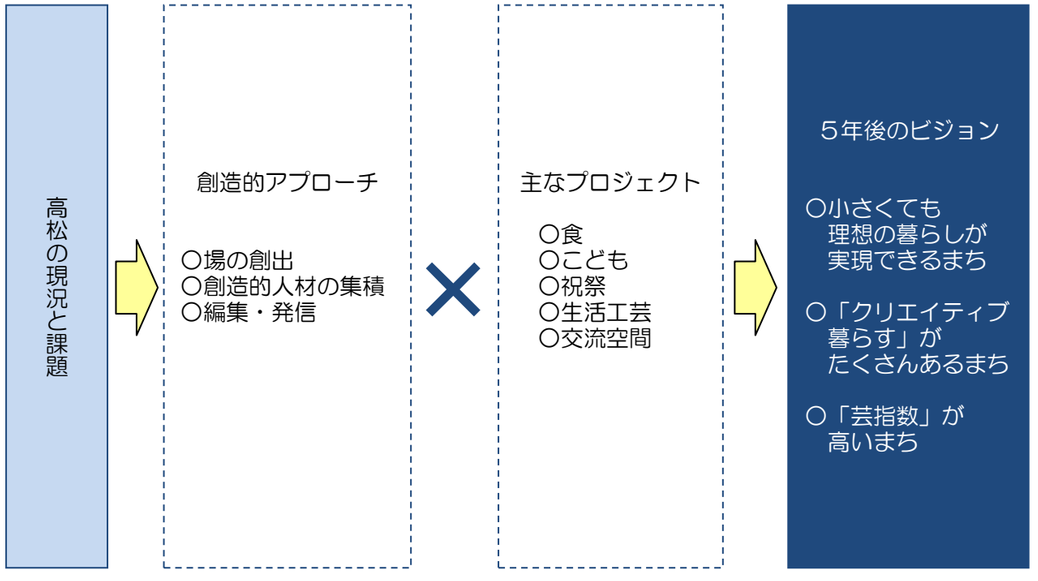
高松ならではのブランドを編集する戦略

○瀬戸大橋の開通以降、高松は物理的な拠点性を失いました。これを機会と捉え、高松ならではの高付加価値を編集することで、他都市との違いを生み出すことが必要です。
○高松の自然や歴史、生活に根付いた３つのローカル（マテリアル、テクニック、デザイン）を再発見し、現代ニーズに合った活用方法を提案するとともに、高松らしさを付加した商品の創出と発信を行います。

ゆるやかに連携し、段階的に取組む戦略

○創造都市の実現のためには、従来の縦割りではなく、同業種／異業種がゆるやかな横連携でつながり、直面する課題に対して協働で取組むことが求められます。
○また、創造的な解決手法は一朝一夕に達成できるものではなく、トライ＆エラーを繰り返しながら、少しずつ前に進めていくことが大切です。
○創造力と実践力のある人材がゆるやかに連携し、段階的に取組むことで、創造都市を実現します。

（３）ビジョン達成のイメージ



5．創造的アプローチ

（１）場の創出

○人を引きつける歴史的建造物や古い町並み、自然豊かな海園・田園を生かした空間づくりとともに、創造的人材が集まり、情報の共有できる拠点づくりを行います。
○創造的人材と市民が連携することで、新しい動きが生まれる仕組みをつくります。

空間
- ○廃校等を活用した「高松クリエイティブカフェ（仮称）」の創設（情報／コミュニティ拠点）
- ○歴史的建造物や古いビルのシェアオフィス／SOHO としての再活用
- ○自然と一体となった景観・町並みづくり

連携
- ○参加・交流型ワールドカフェの開催
- ○国際的芸術家の招聘によるセミナー開催
- ○異業種や大学との連携による新商品開発

（２）創造的人材の集積

○国内外の創造的人材の誘致を図るとともに、幼少期からの教育を通じて創造的人材の育成に努めます。
○高松に集い、暮らす創造的人材がこれからも高松で活躍するために、彼らの作品づくりや活動が仕事につなげ、クリエイティブ産業としての振興を図ります。

人材
- ○高松の心地良い暮らしを伝える高松ライフスタイル本の発刊
- ○創造的人材への逆指名によるトップセールス
- ○ファシリテーション／クリエイティブ・マネジメント人材養成講座の開講
- ○子どもたちの創造性の開発

産業
- ○シェアオフィス／ハウスや SOHO に対する家賃補助
- ○起業を促進するインキュベーションの整備
- ○創造的人材と企業のマッチング支援

（３）編集・発信

○高松ならではの資源を活用した戦略的な国際交流や情報発信を通じて、クリエイティブ高松の知名度向上に努めます。
○国内外の創造都市との連携により、互いの都市がともに成長してく相乗効果を生み出します。

編集
- ○地域資源を活用した新しい物語や映像の創作
- ○インターネットでは入手できない「リアル」な高松のエピソードの収集・編集
- ○ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請（高松で暮らし続けるための新カテゴリー提案）

発信
- ○ワールド・フェスティバルを通じた発信
- ○創造都市ネットワーク日本(CCNJ)への加盟
- ○創造都市政策セミナーの誘致

6．主なプロジェクト

（１）フード・イノベーション・プロジェクト

食

【目的】
農林水産物の地産地消を推進するとともに、新規就農者の増加による耕作放棄地の減少や買い物難民に対する支援など、複合的な社会課題の解決をめざします。

【取組イメージ】
- ○デザインやマネジメントができる新規就農者の確保・育成
- ○耕作放棄地の把握・管理、新規就農者への引継ぎ
- ○稼ぎにも生きがいにもつながる農産物直売所の整備・管理運営（朝市の開催などを通じた直売体制の確立）
- ○直売所周辺に居住する「買い物難民」に対する宅配・配食サービスの実施
- ○市内外の都市住民との交流による「農のある暮らし」の普及促進

（２）高松チルドレンズ・ミュージアム・プロジェクト

こども

【目的】
これからの高松を担う子どもの創造力を、環境問題などと組み合わせながら開発するとともに、子育て世帯の支援による労働力確保につなげます。

【取組イメージ】
- ○子どもの創造力を育てる芸術士の取組の推進（芸術士の確保・育成、芸術士派遣先の拡充、工芸・音楽・スポーツ・演劇・映画など分野の拡充）
- ○ゴミ処理場等との連携によるレミダ（素材のリサイクル＋アート）の実施
- ○子育てをしている両親を支援する取組の拡充（育児支援サービスの推進）
- ○子どもの遊び環境の充実や子育て情報の収集の拠点施設の整備・管理運営（子ども未来館の充実）

（３）ワールド・フェスティバル・プロジェクト

祝祭

【目的】
市民芸術活動の種が芽吹きやすい寛容性のある文化土壌を活かし、イベントの国際化支援により、世界中からの観光客の集客に取り組みます。

【取組イメージ】
- ○個人や市民団体が取組む「こんまい」イベントの開催支援
- ○市内イベントの国際化支援（瀬戸内国際芸術祭【アート】、瀬戸内生活工芸祭【工芸】、盆栽水石大会【盆栽】、むれ源平石あかりロード【庵治石】、瀬戸内国際体育祭【スポーツ】、さぬき映画祭【映画】、高松国際ピアノコンクール【音楽】、瀬戸内サーカスファクトリー【パフォーミングアーツ】など）
- ○国際イベントへの来訪客が楽しめるクリエイティブツーリズムの推進（オープンハウス高松など）

（４）グローカルな生活工芸プロジェクト

生活工芸

【目的】
自然や歴史、生活と結びついてきた民藝・工芸を「生活工芸」として新たに価値を見出し、世界に向けて発信します。

【取組イメージ】
- ○高松の生活に根付いた民藝・工芸の発掘及び伝承
- ○海外販路開拓の推進（展示会出展、商談会の実施）
- ○作り手の現場を体験できる“ほんもの”志向のツーリズムの推進
- ○素材から製品までトータル・プロデュースできる人材の誘致・連携
- ○異業種や大学との連携による新商品開発

（５）海園・田園とつながる人間都市プロジェクト

交流空間

【目的】
北に瀬戸内海、南に讃岐山脈が広がる高松の魅力を再発見し、人と人との交流を創発するため、創造的な移動手段を活用した取組を進めます。

【取組イメージ】
- ○都市の魅力を再発見する「歩きたくなる高松」の推進
- ○海のある暮らしの推進（高松港における駐船場の整備）
- ○田園とまちなかをつなぐ「スマートサイクル」の推進（コミュニティサイクルポートの整備）
- ○公共交通との連携によるコンパクト・エコシティの推進